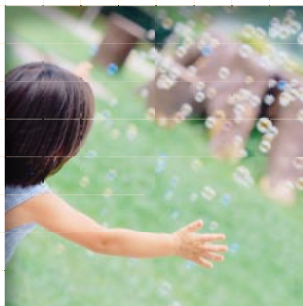
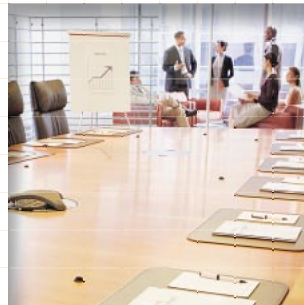
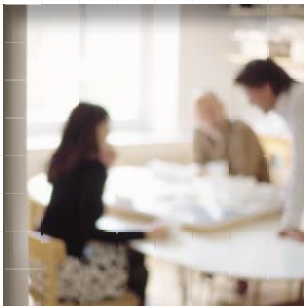


CSRレポート 2008



NEC ELECTRONICS

08

「CSRレポート2008」の位置付け

当社グループは、自社利益の拡大という経済的側面に加え、お客様満足(CS)の向上、透明性の高い経営、環境対策、社会貢献、人権尊重などの社会的側面にもバランスよく取り組むことで、企業活動を通じた持続可能な社会への貢献を目指しています。

当社グループは、「環境」「社会」「経済」のトリプルボトムラインに基づく3冊の報告書による情報開示を行っています。

本「CSRレポート2008」では、当社グループ共通の経営指針「企業行動憲章」に則り、お客様、株主・投資家、取引先、従業員、地域社会など、現在および将来のすべてのステークホルダー(利害関係者)の皆様に対する「企業の社会的責任(Corporate Social Responsibility=CSR)」遂行という視点に立った活動報告を行うとともに、私たちの豊かな社会を支える当社グループのものづくりについてご紹介します。

3冊の報告書における主な開示情報



SRI(社会的責任投資)インデックス 組み入れ状況(2008年6月現在)

モーニングスター社(日本)のSRI株価指数「モーニングスター社会的責任投資株価指数(MS-SRI)」の構成銘柄(150社)に選定(2004年9月)



国連グローバル・コンパクトに参加 2008年3月より、国連グローバル・コンパクトに参加しています



NECエレクトロニクスグループ企業行動憲章

私たちNECエレクトロニクスグループは、健全な事業活動をとおして、お客様、株主・投資家の皆様、お取引先、従業員をはじめとするすべての関係者から信頼される存在となることを目指しています。

そのため、良き企業市民として法令を守って誠実に行動し、以下の指針に基づいて社会的責任を果たしていくとともに、高い技術力を基盤とした魅力ある半導体ソリューションの提供に取り組んでまいります。

◎お客様志向

最適かつ高品質のソリューション提供をとおして、お客様の満足向上を追求し、お客様からの揺るぎない信頼を獲得します。

◎誠実で透明な企業活動

公平、公正かつ誠実で透明性の高い企業活動を推進するとともに、その活動内容の積極的な公開に努めます。

◎地域社会、国際社会への貢献

グローバルカンパニーとして、国や地域の歴史、文化、慣習、人権を尊重し、地域社会、国際社会に貢献します。

◎地球環境の保全

製品の開発、生産、販売、使用、廃棄にいたるまでのライフサイクルにおいて、環境負荷を低減し、持続可能な社会の発展に寄与します。

◎誇りある企業文化

従業員一人ひとりの個性を尊重し、その資質、能力が最大限に発揮される、活力ある組織を実現します。

編集方針

- 当社は、当社グループの活動を「環境」「社会」「経済」の観点から「環境経営報告書」「CSRレポート」「アニュアル・レポート」の3冊でお伝えしています。
- 本レポートは、従業員をはじめお客様、地域社会の皆様、お取引先の皆様、株主・投資家の皆様等、当社の事業に関係する多くの皆様に当社のCSRに関する考え方と具体的な取り組みをわかりやすくご報告し、皆様との双方向のコミュニケーションをはかっていくことを目的としています。

参考にしたガイドライン

- 環境省発行「環境報告ガイドライン2007年版」
- GRI「サステナビリティリポーティングガイドライン2006(第3版)」

報告対象範囲

本レポートの対象範囲「NECエレクトロニクスグループ」とは、国内8社(含むNECエレクトロニクス)、海外11社のグループ会社となります。

CONTENTS

- 3 トップコミットメント
- 5 特集:豊かな社会を支えるNECエレクトロニクスグループのものづくり
- 11 NECエレクトロニクスグループのCSR体制

誇りある企業文化

- 14 人権尊重と機会均等の実践
- 15 人材開発とコミュニケーション
- 16 安全・衛生・健康

お客様志向の追求

- 18 お客様満足(CS)向上に関する方針と取り組み
- 20 品質向上に関する方針
- 21 品質向上と製品安全への取り組み

社会貢献活動への取り組み

- 23 当社およびグループ各社の社会貢献活動

地球環境保全への取り組み

- 26 環境マネジメントシステム

誠実で透明な企業活動

- 29 購買パートナーとの連携
- 30 販売パートナーとの連携
- 31 透明な経営への取り組み

- 32 企業概要

報告対象期間

2007年4月1日～2008年3月31日を中心に、同期間後の活動内容も含んでいます。

発行

2008年6月(次号発行予定2009年6月)

詳細情報

当社のCSR推進に関する情報は、本レポートに掲載したもののほか、当社の社外向けWebサイト上に公開しています。

URL <http://www.necel.com/csr/ja/>

トップコミットメント

お客様と社会の信頼に応える 半導体のリーディングカンパニーを目指す



NECエレクトロニクスは2002年の設立以来、半導体事業のリーディングカンパニーとして、最先端技術による高機能、高品質な製品づくりと、それら製品の安定した供給、開発サポート等、商品を取り巻く価値=サービスの向上により、お客様のニーズに応え、永続的にお客様からの信頼に応える企業を目指してまいりました。

スピードを上げて進化を続ける社会において、半導体へのニーズはますます多様化かつ高度化しておりま

すが、その中でも、NECエレクトロニクスグループが注力する低消費電力技術や高信頼性技術には、地球環境や製品の安全性に対する社会の意識が高まるにつれて、特に高い期待が寄せられています。また、半導体が組み込まれている電子機器自体の新商品開発期間が年々短くなってきたことにとめない、当社の開発から納品までの期間短縮もこれまで以上に強く求められるようになっていきます。

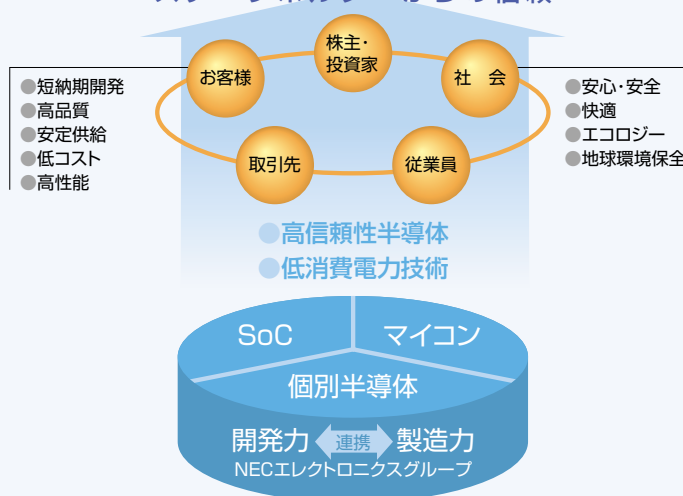
これらのニーズに応えるためには、製造段階での材料技術も合わせた低消費電力の追求や、製造段階での知見を開発段階での改良に即座に反映することでの品質向上、および製造工程を短縮する開発設計等、開発と製造の緊密な連携活動が不可欠です。このためNECエレクトロニクスは2007年度に半導体の開発と製造のより強い連携を骨子とする大きな事業構造改革を実施いたしました。

まず、開発と製造の機能別組織を、事業別にSoC、マイコン、個別半導体のビジネスユニットへと編成しました。また、国内に6つあった生産会社を各ビジネスユニット別に3つに統合し、ビジネスユニットでの開発と製造の連携が一気通貫で行えるように再構築しました。

私は、PFC排出削減等、生産時における自社の環境負荷低減に努めるとともに、このような取り組みにより製品自体のさらなる省エネルギー化・高信頼性を実現することで『安全・安心・快適』な社会の実現に貢献したいと考えております。

当社は、50年以上にわたる半導体事業の歴史の中で、常に、ステークホルダーの皆様からお寄せいただく「信頼」に支えられてまいりました。品質の高い製品を確実にお届けすることで得られる「お客様からの信頼」、安定的な利益を計上し企業価値を上げることによる「株主・投資家の信頼」、公平かつ誠実なビジネスパートナーとしての「資材調達先からの信頼」、そして、『安全・安心・快適』な社会の実現に努めることによる「社会からの信頼」。あらゆる方々からの信頼なくして、現在の当社は存在しなかったことでしょう。

ステークホルダーからの信頼



NECエレクトロニクスグループのCSRの考え方

高品質・高信頼性の魅力ある半導体ソリューションの提供のみならず、すべてのステークホルダーの方々からの期待に応える、「信頼される企業」となる。これこそ私たちが目指し続ける姿です。

私たちNECエレクトロニクスグループは、持続可能な社会の実現に貢献できる企業となるべく、今後もステークホルダーの皆様との信頼関係をより強固なものとし、企業価値を高めてまいります。

皆様の変わらぬご支援とご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

NECエレクトロニクス株式会社
代表取締役社長

中島俊雄

特集

豊かな社会を支える NECエレクトロニクスグループの ものづくり



携帯電話やテレビ、デジタルカメラ等、私たちの便利で快適な生活になくはならない電子機器の数々。その進化にはめざましいものがあります。より多機能で使いやすく、小型・軽量かつ省エネに。電子機器の技術革新によって、私たちの社会はこれからますます豊かになっていくことでしょう。

これら電子機器の進化を、最先端の技術と豊富な経験に基づくノウハウで支えているのがNECエレクトロニクスグループの半導体です。

社会のさまざまなシーンで活躍する、NECエレクトロニクスグループの高性能で高品質な半導体。その中につまったたくさんの先端技術と、その技術を支える人づくりを紹介します。

楽しい 便利
色鮮やかな映像を
長く楽しんでいただけます。

近年、携帯電話は、ビデオ・カメラ機能、ワンセグ放送受信等の普及にともない、「美しい画面表示」への要求がますます高まっています。しかし、高画質化を追求すると、消費電力が増加し、携帯電話の使用できる時間が短くなってしまいます。そこでNECエレクトロニクスでは、液晶ディスプレイに使用する電力を最大で約50%削減できる、独自の液晶バックライトコントロール技術「Mobile AGCPS*」を開発しました。これは、画像イメージに合わせてバックライトの明るさを細やかに変えることができる技術で、表示画質の美しさを維持しながら消費電力を削減し、電池の長寿命化にも貢献します。今後はほかの電化製品にもこの技術を展開していきたいと考えています。

*Mobile AGCPS : Mobile Auto Gamma Control and Power Saving

高い表示品質と低消費電力化が常に求められるため、今後もさらなる性能向上に努めていきます。

バックライトコントロール技術開発リーダー
能勢 崇

楽しい 便利
一眼レフカメラ並みの美しさを
携帯電話で手軽に使えます。

世界的に携帯電話へのカメラ機能搭載率が高まっています。これにともない、カメラ機能の重要性が増し、携帯電話でも、より高画質できれいな画像での撮影を求める人が増えていきます。NECエレクトロニクスではこれまで、高性能・高画質が求められるデジタルカメラ向けの技術と、小型・省電力に特化した組み込み用LSI開発のノウハウを培ってきました。そこでこの2つを融合し、携帯電話に搭載できるほど小さなサイズと省エネルギーを実現しつつ、800万画素まで撮影できるLSI「CE131」を開発しました。

これにより、携帯電話のカメラ機能でも一眼レフデジタルカメラ並みの高画質を容易に実現できます。また、いつも持ち歩く携帯電話で、シャッターチャンスを逃さず、美しい画像でのコミュニケーションを手軽に楽しめます。

「高画質なカメラ」といっても要望は十人十色。性能向上から開発サポートに至るまで、トータルな付加価値を提供します。

カメラ開発SE&画質調整チームリーダー
新倉 謙太郎

便 利 快 適

いつでもどこでも、早く、確実に情報を伝えます。

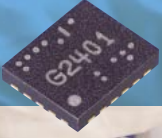
情報化が進む現代では、大量の情報を高速で通信するのに、携帯電話や無線LAN等は欠かせないものです。これらの中で、データの送受信やアンテナの切り替え等、高周波信号の経路を高速に切り替える重要な部品の一つに「スイッチIC」があります。

NECエレクトロニクスは、最新の化合物半導体技術でこのスイッチICを製造しています。現在、最新型の第三代携帯電話や無線LAN等に広く採用されているガリウムヒ素スイッチICは、業界最小で姿形は見えません。しかし、高品位な画像、音声は、NECエレクトロニクスのスイッチICを介して提供されているのです。

これからも世界の情報のゲートとして、早く、確実に、効率よく情報を伝えるスイッチICの開発に努めていきます。

当社の最新化合物半導体技術と量産ノウハウで、次世代の高速無線通信用のキーデバイスを提案していきます。

ガリウムヒ素スイッチIC開発責任者
齋藤 靖雄





環境共生

未来型環境対応車を支えています。

環境意識の高まりから、自動車業界では、車のエネルギー源がガソリンから電気へと移り変わり、ハイブリッドカー等の低公害車の開発が急ピッチで進んでいます。電気自動車を走らせるには、より大きな電流を流す必要があります。そこで、NECエレクトロニクスのパワー-MOSFETが役立っています。パワー-MOSFETは、ほかのスイッチ素子(トランジスタ等)に対しオン時の抵抗値が小さいため、大電流を流すのに適しています。NECエレクトロニクスのパワー-MOSFETは180Aの業界最大容量クラスの大電流を流すことが可能で、自動車の電動パワーステアリング等のモータ制御にも最適です。環境面では、半導体自体の省エネ対応技術の開発にも注目が集まっています。今後も最先端テクノロジーを活かした製品で、品質と環境、両方のニーズに応えていきます。

開発チームが一丸となって試行錯誤を繰り返し、業界トップ性能の大電流駆動パッケージを開発することができました。

パッケージ開発責任者
清原 俊範





インバータ制御で暮らしの快適・エコに貢献します。

インバータ制御の代表システムの一つであるエアコンは、冷房、暖房を基本機能として部屋の温度を最適に保つため、常に室温をチェックし、その状況に応じたきめ細かな温度調節を行っています。このきめ細かな制御を実現しているのがインバータ制御であり、キーデバイスがマイコンです。

マイコンのインバータ制御によりモータの回転数を速くしたり、遅くしたりすることで常に一定の温度に保つことができるため省エネルギー効果も高く、2007年度モデルのエアコンは、1995年度に比べ年間の電気代が13,800円節約できています*。このインバータ制御は冷蔵庫や洗濯機等、多くの機器にも用いられています。NECエレクトロニクスのAll Flashマイコンは、このようなシステムをはじめとする多くのシステムに採用され、快適でエコな生活を支えています。

*出展：財団法人省エネルギーセンター



機器を通してだけではなく、マイコンそのものの省エネ化を進めています。地球に優しいマイコンでエコロジーに貢献します。

インバータマイコン企画リーダー
鳥畑 敏明



より安全で快適なドライブを実現します。

些細な故障でも多くの人命に危険を及ぼしかねないため、1個の不良部品も許されない自動車。しかし近年では、品質としての安全確保だけでなく、機能として、死角をモニターで確認できる等、ドライバー自身の安全で快適な運転を支援するシステムの開発が進んでいます。この実現のために欠かせない部品として、ICのニーズはますます高まっています。NECエレクトロニクス・ヨーロッパは、仕様からデザイン実装、製品資格、故障解析にわたる、設計のライフサイクル全体をカバーするため、「ヨーロッパテクノロジーセンター」を設立。マイコン自体の高い品質を保ちつつ、全世界に広がる自動車メーカー各社の要望にきめ細かく対応しています。また、日本や北米のデザインセンターと緊密な連携を取り、トータル設計のソリューションを提供しています。

お客様の声に耳を傾け、業界最高峰の設計手法に基づくトータルなソリューションにより、最高のサービスを提供します。

NECエレクトロニクス・ヨーロッパ
エンジニアリンググループジェネラルマネージャ
マティアス・フォクト





「半導体ものづくり推進センター」では日本の品質力を海外に広げています。

高品質な製品づくりには、生産設備を安定的に稼働させる従業員一人ひとりの高い技術力が必要ですが、日本には長年培ってきた熟練の技やノウハウがたくさんあります。そこでNECエレクトロニクスは、日本の技術やノウハウを海外の工場へ広げられるよう、2007年10月に「半導体ものづくり推進センター」を設立しました。

この「半導体ものづくり推進センター」では、装置の分解、組み立て、調整が行える設備を設置したトレーニングルームを設け、世界各地の生産拠点から研修生を受け入れています。研修生は、熟練技能者から技術訓練を受けたあと、日本国内での実務研修を通じて実践力を身につけます。

また、帰国後は、修得した技術・知識を活かして後進の技術指導役を担う等、責任ある立場で活躍しています。

半導体事業の技術革新は日進月歩です。国内で開発された最新技術を海外に展開し、均質な製品づくりに貢献します。

技能研修企画リーダー
宮本 隆



「人センサ活動」で徹底した品質管理を行っています。

自動車や携帯電話等さまざまな電子機器に用いられる半導体には、常に高い品質が求められています。しかし、製造装置のデジタルなチェックではどうしても限界があります。

そこで、NECセミコンダクターズ・マレーシアでは「人センサ活動」というユニークな品質管理活動を行っています。

この活動は、人間の五感を研ぎ澄ませて、いつもと違う異常を素早く察知し、不良品を出さないようにする活動です。人の優秀なセンサで、機械では発見できない色・臭い・音・感触等の微妙な変化をいち早く察知します。

全員が主役になり取り組んでいる「人センサ活動」は、一人ひとりの品質意識の高揚で、さらに感度を向上させることができます。これからも「人センサ活動」を通じて、高品質な製品を提供していきます。

私が異常を感じることで、品質の低下を防ぐことに繋がります。この仕事には私はやりがいを感じています。

NECセミコンダクターズ・マレーシア
パワーデバイス仕上げプロセステクニシャン
モハド・ハドフィズ



「話せる・助け合える・頑張れる」がキーワードです。

良い製品をつくるには、一人ひとりが能力を発揮できる良い職場づくりも重要です。NECセミコンダクターズ九州・山口では、経営方針の一つに対話型コミュニケーションを掲げ、個人の資質と能力を最大限に発揮できる職場づくりに取り組んでいます。その基盤を支えているのが、全員参加型の職場活性化への取り組みです。

この活動では、役員懇親会や職場懇談会、あいさつ運動、職場見学会を開催し、従業員同士の交流を推進すると同時に、コミュニケーションスキル向上を支援する研修も実施しています。また、一人ひとりのチャレンジを応援する職域拡大やスキルアップの研修も実施しています。

自主的な取り組みやアイデアによるこれらの活動が、良い職場づくりの原動力となっています。

働く一人ひとりを尊重し大切にできる風土は、働きがいのある職場づくりと、従業員個人の成長につながっています。

NECセミコンダクターズ九州・山口
全社活性化推進責任者
三隅 昭子



植林を通じて環境保護への意識向上を推進しています。

地球規模での環境問題が深刻化する今、企業は環境配慮型の製品をつくるだけでなく、従業員の環境保護への意識向上に取り組むことも重要です。NECエレクトロニクス中国では、従業員たちが自然環境の現状をよく知り、保護の大切さを実感できるよう、積極的な植林活動を行っています。この活動は、会社設立の翌年より毎年実施しているものです。2005年からは、NECグループ会社の共同社会貢献活動の一環として、北京市内から約75km離れたところに位置する「NECの林」で実施しています。NECの林の植林では、2007年までの3年間に3,000本の苗木を植え、荒れた山を緑の林へと変えてきました。毎年70人以上の従業員が活動に参加し、環境保護への意識を高めています。

一本の木を植えることは、将来の青空のために「希望の種」を蒔くこと。環境改善に貢献できることを誇りに思います。

NECエレクトロニクス中国
マーケティングマネージャ
姚 翹

NECエレクトロニクスグループのCSR体制

当社は、CSR推進委員会を中心とした、CSR推進体制を整備しています。また、企業価値の最大化をはかるためのコーポレート・ガバナンス強化として、「経営の透明化」と「健全性の確保」に努め、行動規範に基づくコンプライアンスの実践に取り組んでいます。

CSR推進体制

社内各部門、関係会社間の連携強化を通じてCSRを推進

当社では、2004年6月に、「NECエレクトロニクスグループ企業行動憲章」を制定し、当社グループのCSR推進活動の方針を明確にするとともに、社長を委員長とする「CSR推進委員会」を設置し、当社グループのCSR活動を推進しています。

CSR推進項目

カテゴリー	CSR推進項目
共通項目	コンプライアンス推進(倫理・法令遵守)、リスク管理、情報セキュリティの強化
お客様志向	CS向上、品質向上、品質事故発生時の対応
誠実透明な活動	公正取引の推進(独占禁止法等の遵守)、調達先対応、安全保障貿易管理の推進(輸出関係法令の遵守)、政治献金・寄付、情報開示・コミュニケーション
社会への貢献	地域とのコミュニケーション、社会貢献活動
地球環境の保全	環境管理
誇りある企業文化	安全衛生、障がい者雇用促進、機会均等、人権尊重・差別対策、教育研修

コーポレート・ガバナンス体制

業務執行・経営の監視の仕組みと内部統制システムを整備

当社では、グループ・ガバナンスの観点から、ガバナンス体制の強化に取り組んでいます。2006年5月、会社法の施行を契機に、当社では、国内外の子会社の株主総会・取締役会の付議事項の標準化や承認プロセスの単純化等に取り組む、効果的でわかりやすいグループ・ガバナンス体制の構築に努めています。

URL <http://www.necel.com/csr/ja/el/management.html>
詳細はこちらのURLからご覧ください

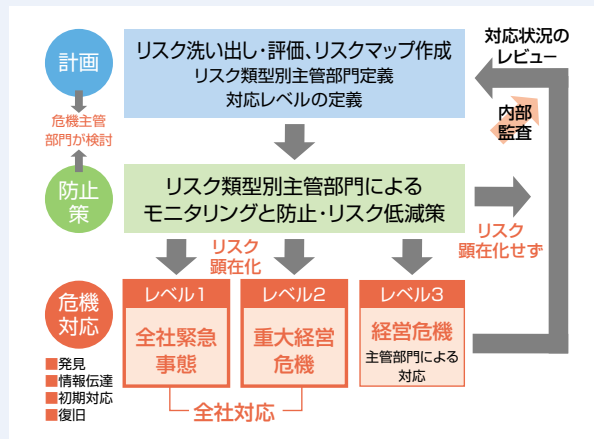
リスク管理体制

「リスク管理基本規程」の制定に加え、事業継続計画を策定し、リスク管理体制を強化

当社では、従来、社内の各部門が個別分散的に対応するリスク管理体制でしたが、2006年7月に「リスク管理基本規

程」を制定し、全社で統一された活動をするための仕組みを構築しました。

リスク管理の全体プロセス



事業継続計画

当社では、リスク管理体制の強化の一環として事業継続計画(BCP: Business Continuity Plan)の策定および強化に取り組んでいます。2001年9月11日に発生した米国同時多発テロや、大型ハリケーン、大地震など大規模な自然災害の発生を契機として、不測の事態で被害が生じた場合にも迅速な事業の継続と回復を目指したBCPの策定が企業に強く求められるようになっており、当社もBCPの策定・強化に取り組んできました。具体的には、既存の防災および避難の仕組みをベースに、事業の継続と早期回復を実現するための仕組みの構築を進めています。

また、当社グループでは、本社および国内工場が地震に被災するリスクを重要視し、2007年度は、国内における大地震を想定したBCPの策定を進めました。今後も、国内における地震を中心としたBCPの充実に取り組むと同時に、現在、その懸念が増大している新型インフルエンザを含んだ大規模伝染病の発生等、多様なリスクに対応できるようにBCPが想定するリスクの拡充と対策の充実に取り組んでいきます。

さらに、BCP改善のプロセスとして、PDCAサイクルの実施と管理による事業継続管理(BCM: Business Continuity Management)を構築し、当社リスクの軽減とBCPの拡充をはかっていきます。

NECエレクトロニクスグループ行動規範

一人ひとりが遵守すべき行動基準を NECエレクトロニクスグループ行動規範として明示

NECエレクトロニクスグループ行動規範

当社では、コンプライアンス推進のために、当社の役員、従業員の一人ひとりが日々の事業活動の中で遵守すべき事項を、2003年6月に「NECエレクトロニクス行動規範」として制定しました。さらに2006年7月には、グループ全体でより一体となったコンプライアンス活動を推進するため、「NECエレクトロニクスグループ行動規範」に改正し、適用対象をグループ全体へと拡大しました。

URL <http://www.necel.com/csr/ja/el/rule.html>

NECエレクトロニクスグループ行動規範全文

コンプライアンス推進体制

法務部は、コンプライアンスの推進に係る主管部門として、当社グループにおけるコンプライアンス体制構築および運用支援、コンプライアンス全般に係る教育・啓発活動を実行しています。また、当社の各部門およびグループ各社に設置しているコンプライアンス推進者は、部門長およびグループ各社社長を補佐し、各組織におけるコンプライアンスを推進する役割を担っています。

コンプライアンス推進活動

コンプライアンス徹底のため、コンプライアンスに係るリスク毎に、当社社内にリスクを主管する部門を決定し、規程・マニュアルの整備、教育・情報発信による啓発、モニタリングの実施等を行っています。それらの取り組みは、コンプライアンスに係るリスク毎に社内Webサイトへ掲載され、問題に直面した際、どの部門に相談したら良いか、どのような社内規程を参照すべきか等が一目でわかるようにし、問題の未然防止・早期解決に努めています。

また、リスクを主管する部門は、コンプライアンス推進に関する年度の活動計画を策定し、これを受けて当社の各部門およびグループ各社でも年度の活動計画を策定し、実行するという、コンプライアンスに関するPDCAサイクルを回す仕組みを構築しています。

コンプライアンス教育／情報発信

新入社員教育、新任主任教育、新任管理職教育等の階層別教育のほか、毎年、全役員・従業員を対象としたコンプライアンス教育を実施しています。

また、リスクを主管する部門毎にeラーニングも実施しており、2007年度は、情報セキュリティ、環境、セクハラ・パワハラ等に関する人権研修等を実施しました。

さらに当社では、情報発信の充実に努めており、社内Webサイトおよび月1回配信される全従業員向けメールマガジンで、コンプライアンスに関する各種情報を発信しています。特にメールマガジンでは、コンプライアンスの視点から身近に起こりそうな問題を事例としてまとめた「NECエレクトロニクスグループ行動規範ケースシート」とコンプライアンスに関する簡単なクイズを掲載し、コンプライアンスをより身近に感じてもらえるよう努めています。

相談・通報窓口の設置

コンプライアンス経営の実効性を高めるため、 「NECエレクトロニクスグループヘルプライン」を設置

コンプライアンス上の問題を把握した際、なんらかの事情により上司や関係部門に報告ができない事態に備えて、相談・通報できる内部通報窓口を2003年6月に設置し、問題の早期発見と解決をはかってきました。

2006年7月からは、名称を「NECエレクトロニクスグループヘルプライン」とし、受付対象を当社従業員のみならずグループ会社従業員、購買パートナー、販売特約店にも拡大しました。また、受付窓口を第三者機関にも設置することで、相談・通報する者の希望により、通報者の匿名性を保障する仕組みを構築しました。

不利益処分の禁止等については、規程に定めるとともに、社内Webサイトに掲載し、相談・通報する者が安心して通報できるよう配慮しています。

また、通報内容は社長が委員長を務める委員会ですべて報告することで、経営トップがリスク情報を共有できる仕組みを構築しています。

誇りある企業文化

NECエレクトロニクスグループは、従業員一人ひとりがその個性を伸ばし、個々の能力を最大限に発揮できるような企業文化を、従業員とともに大切に育てていきます。

当社の企業文化

従業員一人ひとりがその能力を最大限に発揮できるような企業文化を創造します。

安全かつ健康的で、差別や嫌がらせのない職場環境においてこそ、従業員はその個性を伸ばし、個々の能力を十分に発揮することができます。また、このような良好な職場環境は業務の効率性、生産性の向上をもたらします。

NECエレクトロニクスグループは、従業員とともにこのような企業文化を大切に育んでいきたいと考えています。

TALK about CSR

従業員の健康支援はCSRの第一歩。

従業員の皆さんが資質や能力を最大限に発揮するには、心身の健康がなによりも大切です。私たち保健師は、産業保健スタッフと連携をはかり、個別健康相談やストレス反応セルフチェックの活用、メンタルヘルスセミナーの開催や健康に関する情報発信等を通して、健康への関心を高め、予防や早期対応、休職・復帰の支援を行うことにより、健康で活気ある職場づくりをお手伝いしています。

人事総務部

高松 菜穂子(左)
犬飼 恵理(右)



人権尊重と機会均等の実践 14

人材開発と
コミュニケーション 15

安全・衛生・健康 16

人権尊重と機会均等の実践

従業員が適切なコミュニケーションを通じ、相互に信頼し合い、一人ひとりがその能力を十分に発揮できる職場環境を整備していきます。

人権尊重

従業員が能力を十分に発揮できる、差別や嫌がらせのない職場環境を維持

当社は、「国連グローバル・コンパクト」に参加することにより、基本的人権を尊重し、あらゆる差別を行わないこと、強制労働や児童労働を行わないことを宣言しています。

また、「NECエレクトロニクスグループ行動規範」を制定し、採用、育成、処遇等雇用に関するすべての面において、人権を尊重し、人種、信条、性別、年齢、社会的身分、門地、国籍、民族、宗教、障がいの有無等による差別、差別的言動を行わない均等な取り扱いを行うこと、またセクシャルハラスメント等の禁止について明示しています。これをグローバルに展開するグループ各社に周知徹底し、各国の労働法令遵守は当然のこと、人権教育や啓発活動を行っています。

具体的には、全社委員会である「人権啓発推進委員会」を中心に階層別研修や目的別研修等の研修活動を実施するとともに、社内向けWebサイト「人権啓発・障がい者雇用推進関係ホームページ」や人権週間行事等を通じて人権啓発活動に取り組んでいます。また、社内に女性メンバーを加えた「均等取扱等相談窓口(セクハラ相談窓口)」を設け、ポスター掲示によって従業員に周知し、相談しやすい環境づくりと適切な対応に取り組んでいます。

障がい者雇用

障がい者も働きやすい、バリアフリーな職場環境を整備

当社は、障がい者が働きやすい環境の整備に努めています。聴覚障がい者向けにパソコンネットワークを使い、会議等の音声を手話通訳の形態で配信できるようにしています。また、セキュリティゲートに非接触カードを導入したり、トイレの改修を進めたりすることで、上下肢障がい者に配慮した職場環境を実現しています。

ワーク/ライフ・バランス

仕事と私生活の充実をはかるために、先進的なファミリーフレンドリー施策を展開

従業員がやりがいのある仕事と充実した私生活のバランスをはかりながら、個々人の能力を最大限に発揮できるよう支援するため、次のような多くのファミリーフレンドリー施策を展開しています。

■ファミリーフレンドリー施策の導入経緯

年度	導入制度	
	育児関連制度	介護関連制度
1990年	育児休職制度	介護休職制度
1992年	育児短時間勤務制度	介護短時間勤務制度
	医療看護休暇制度	
1997年		介護クーポン制度
1998年	育児クーポン制度	
2000年	育児短時間勤務の期間延長 (3歳3月末→小学校就学始期まで)	介護短時間勤務の期間延長 (3年間→介護事由消滅まで)
	在宅勤務制度	
2002年	ファミリーフレンドリー休暇制度(医療看護休暇制度を改定)	
2004年	育児短時間勤務の期間延長 (特別な事情の場合、小1の3月末まで)	
2005年	・育児休職期間の変更 (1歳到達後の3月末までもしくは1歳6カ月到達まで) ・ファミリー・サポート・センター利用料補助制度 ・チャイルドケア支援金制度 (育児にともなう転居費用補助) ・復職支援Webサイト「育チュウ.com」開設	介護休職の取得回数制限 廃止(介護が必要な状態 毎に取得可)
2006年	・育児短時間勤務の期間延長 (特別な事情の場合、小3の3月末まで) ・在宅勤務期間・対象者を拡充 ・ファミリーフレンドリー休暇取得理由に不妊治療を追加	在宅勤務対象者を拡充
2007年	・ファミリー・サポート・センター利用料補助対象に自治体提供の育児支援サービスを追加 ・ファミリー・サポート・センター利用料補助期間を延長(小1の3月末まで→小3の3月末まで)	
2008年	育児・介護、配偶者転勤による理由で退職した従業員の再雇用制度導入	

人材開発とコミュニケーション

従業員が、個々の意識とスキルの向上をはかり自己実現を可能とする環境を整備するとともに、さまざまなコミュニケーションを通して職場環境を改善していきます。

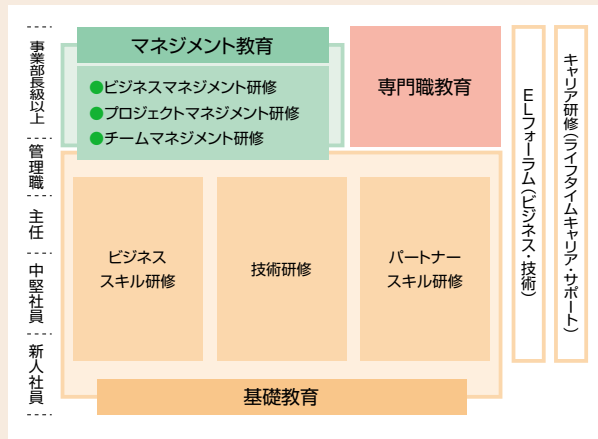
人材開発

研修プログラムとキャリア支援により、従業員の自己実現を支援

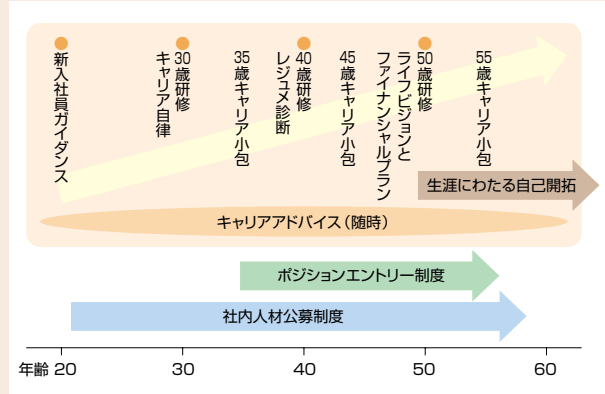
お客様志向を強めるための基礎分野をベースとして、マネジメント強化分野、専門職育成分野の3カテゴリーに分け、研修プログラムを構築しています。研修プログラムは、従業員がそれぞれの役職、役割に応じて求められる知識、ノウハウ等を修得し、より高いレベルで業務を遂行できるよう考慮しています。

また、終身雇用を前提とした組織と個人との相互依存的な関係から、個人が生涯にわたり専門性を発揮できるよう組織が支援する新しい関係へと変革を進めるため、従業員の自己革新を促し、能力再開発への意欲向上をはかることにより、個人の高い志の実現を支援しています。

人材開発体系



ライフタイムキャリア・サポート



コミュニケーション

従業員や労働組合とのコミュニケーションによる職場環境の改善

従業員とのコミュニケーション

マネジメント状況や社員意識を調査するため、国内のグループ会社毎に毎年1回「マネジメント・社員意識サーベイ」を実施しています。会社や職場・上司、従業員の業務等、幅広い内容で調査を行い、その結果に基づいて職場改善や新たな施策を行っています。また、グループ各社の状況を相互に理解し、成果のあった改善事例等を水平展開しています。

労働組合とのコミュニケーション

当社では、従業員が加入する「NECエレクトロニクス労働組合」と年2回労使協議会を開催し、経営方針や経営状況について真摯な意見交換を行っています。また、長時間労働の防止、労働条件の改善や次世代育成支援等幅広い内容に関し、労使による「労働対策委員会」や「ワーク/ライフ・バランス検討委員会」の活動も行っており、これらの活動を通して、安定的な労使関係を構築しています。

国内のグループ各社の労働組合とも各社労使の間で同様の取り組みを行い、海外のグループ各社でも、各国の法令に基づき労働組合や従業員代表との意見交換を行っています。

安全・衛生・健康

「従業員一人ひとりが安全でかつ健康に働くことがなによりもかけがえのないことである」という基本理念のもと、予防管理を中心にさまざまな活動に取り組んでいます。

安全衛生への取り組み

従来の「安全」中心型から「衛生」中心型へ

当社では、近年、事務技術系従業員が大部分を占めるようになりました。そのため安全衛生活動については、従来の「安全」中心型から「衛生」中心型へと方針転換し、「心の健康づくり」「過重労働対策」「健康保持増進」を3本柱にさまざまな活動を展開しています。

この具体的な取り組みとして、「心の健康づくり」においては、セルフケア、ラインケアセミナーおよび各種研修でのメンタルヘルスクエア教育のさらなる充実をはかっています。

「過重労働対策」においては、労働組合の実施する労働対策委員会と連携をはかりながら、長時間残業者およびその上司に対してきめ細かな面談を実施しています。さらに、「健康保持増進」においては、会社で実施する健康診断受診に関して、きめ細かなフォローを行っています。

また、2008年4月から40歳以上の従業員に特定検診、保健指導が義務付けられたことに対応するとともに、メタボリックシンドロームに対する早期対策として30歳、35歳の従業員にも特定検診や保健指導を実施しています。

メンタルヘルスマネジメントへの取り組み

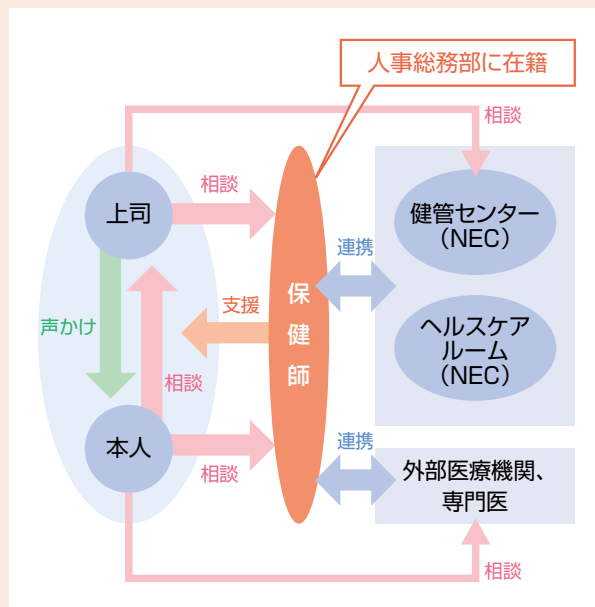
予防と早期対応を基本とした、メンタルヘルスクエアを展開

当社では、保健師を人事総務部に配置し、NECの健康管理センターとの連携のもと、従業員、職場上司、および産業医または専門医とも連携を取り、メンタルヘルスの相談窓口や休職中のフォロー、休職後のケア等、従業員に対しきめ細かなサポートを行っています。

具体的には、管理者全員に対し定期的にメンタルヘルスの専門教育を実施し、ラインケアの意識を高めています。また、社内向け保健師専門Webサイトの「保健師通信」にて、メンタルヘルスクエアを中心とした健康支援に関する情報を掲載し、セルフケアの推進に努める等、会社全体でメンタルヘルスクエアに取り組んでいます。

今後、さらにきめ細かな活動を行い、早期発見、早期治療に繋げるとともに、予防に関する活動も推進していきます。

心の病気に関する相談・支援体制



お客様志向の追求

NECエレクトロニクスグループのお客様満足への取り組みは、お客様の声から始まります。営業・開発・製造・サポートの各ファンクションを継続的に改善し、より一層お客様に満足いただける製品・サービスを提供していきます。

お客様満足に対する考え方

総合ベンダーとしての総力と知恵を結集し、高品質・高信頼性の製品とサービスを提供するビジネスパートナーを目指します。

常に、

1. お客様の求めるものは何か
2. その価値を高める要素は何か
3. どのようにして実現するか

を考え、総合ベンダーとしての総力と知恵を結集して、高品質・高信頼性の製品とサービスを追求していきます。

NECエレクトロニクスグループは、このようなたゆみない努力がお客様の価値創造に貢献するものと確信しています。

TALK about CSR

CS向上活動を通してお客様価値向上に貢献しています。

CS向上の基本は、すべての従業員がそれぞれの立場でお客様の期待を捉え行動することと考えています。このために、私たちは、CS調査等から得られるお客様のご意見、ご要望を全社に展開し改善を推進していく活動と、全従業員を対象としたCSマインド向上のための啓蒙活動を主体に継続的に取り組んでいます。

これらの活動を通して、お客様の価値向上につながる質の高い商品やサービスを提供することができますと考えています。



マーケティング部
竹内 祥史

実際の現場を見ていただくことを通じて安心と信頼をご提供します。

ものづくりの現場を実際にお客様に見ていただき、お客様のご質問やご心配に、その場でお応えする活動に取り組んでいます。現場でいただいたご要望は、その都度、全社で情報展開をするとともに、現場点検や製造拠点間の交流を繰り返すことで、さらなる改善につなげていきます。



品質保証部
遠西 繁治

お客様満足 (CS) 向上に関する方針と取り組み	18
品質向上に関する方針	20
品質向上と製品安全への取り組み	21

お客様満足 (CS) 向上に関する方針と取り組み

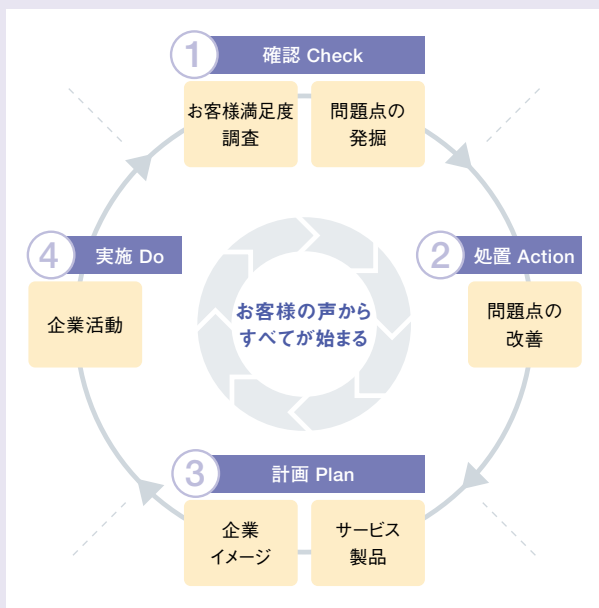
お客様とのコミュニケーションを通じ、お客様の声を反映した製品・サービスの提供、事業活動の実践に向けて、さまざまな取り組みを行っています。

CS活動の基本方針

お客様の満足と信頼の向上をはかり、
快適で暮らしやすい社会の創造に貢献

当社では、高性能・高品質の半導体製品をスピーディに提供すること、また、お客様における付加価値創造まで踏み込んだソリューションを提供することを基本方針としています。これに基づき、営業・開発・生産・スタッフ各部門の従業員一人ひとりが、お客様を意識して日々の事業活動を実践しています。

CS推進マネジメント概念図



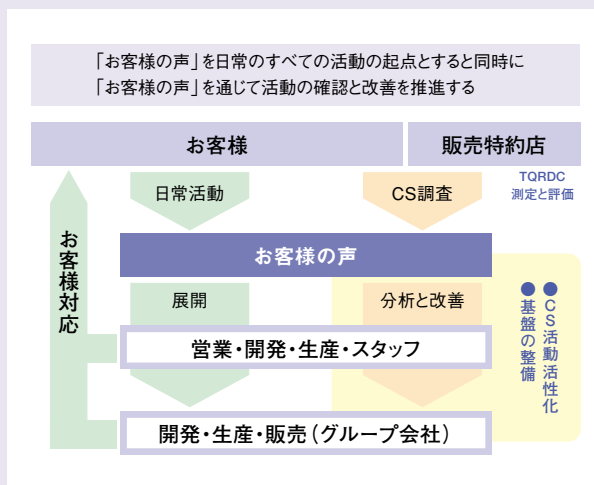
お客様とのコミュニケーション

お客様への満足度調査等を通じCSを追求

当社では、お客様や販売特約店から、日々、お客様ニーズ等に関する情報をいただいています。また、これに加え、定期的にお客様や販売特約店に対し、個別に満足度調査を実施しています。

この調査結果は、お客様の満足要素であるT.Q.R.D.C (Technology, Quality, Responsiveness, Delivery, Cost)に分類のうえ、それぞれを分析して、製品・サービスや事業活動の改善に活用しています。

お客様の声からすべてが始まる



お客様満足(CS)向上に関する方針と取り組み

CSマインドの向上

CSマインドを高めるため、CS教育を実施

当社では、従業員一人ひとりのCSマインド向上をはかるため、階層別教育の中でCS教育を行うとともに、全従業員を対象としたeラーニングによるCS教育を行っています。



CS教育の様子

CS教育の教材



階層別教育の資料

eラーニングの資料

半導体ホットラインの設置

製品、サービス等に関するお問い合わせ窓口として「半導体ホットライン」を設置

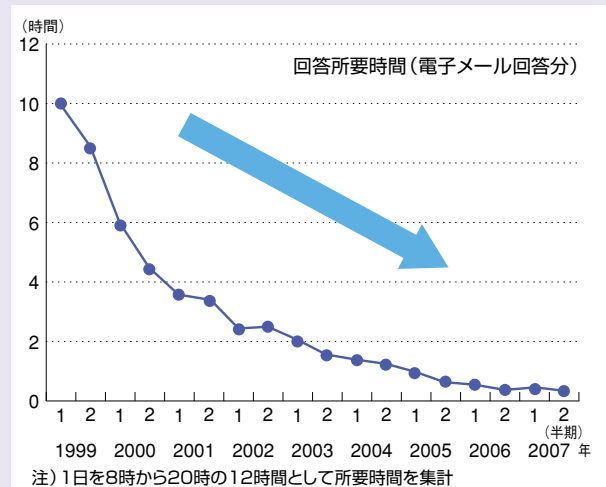
当社の製品、サービスを安全、適切かつ有効にご利用いただくため、お問い合わせ窓口として「半導体ホットライン」を設置し、当社製品に関する各種技術情報等を提供しています。

2007年度の年間受付件数は、国内外からの電話、電子メールを合わせ約6,000件に上ります。「半導体ホットライン」では、迅速・的確な対応に努めており、電子メールによるお問い合わせの100%近くは、お問い合わせを受けてから実働4時間以内に回答メールをお送りしています。

また、お客様からいただいた声は、当社各部門にフィードバックし、製品・サービスの改善活動に活用しています。多くのお問い合わせの中から共通的な事項、重要な事項については、FAQ(Q&A集)を作成し、社外向けWebサイト上に掲載する等、お客様への情報公開に努めています。

さらに、FAQは定期的に見直しを行い、内容の充実をはかっています。

「半導体ホットライン」回答所要時間の短縮



品質向上に関する方針

半導体の総合ベンダーとして最先端技術に基づき、高品質で信頼性の高い製品を開発・提供し、お客様満足を追求するため、社内外の関係部門が有機的に活動し全体最適化を志向した総合品質の向上に取り組んでいます。

品質方針展開

品質方針に基づき、製品の継続的な総合品質の向上を推進し、お客様に安心してご使用いただける製品を提供

当社グループは、トップマネジメント・コミットメントを具体化した品質方針に基づき、年度毎の品質目標を定め、営業・開発・製造の各プロセスでこの目標達成に向けた活動を展開し、総合品質の継続的な改善に取り組んでいます。

各事業ラインは、品質目標に基づき、半期毎に品質向上に向けた重点活動を設定し、これを達成するための実行計画を策定・実行します。この活動は、半期単位で、その達成度の確認と、見直しが行われ改善のサイクルとして運用しています。

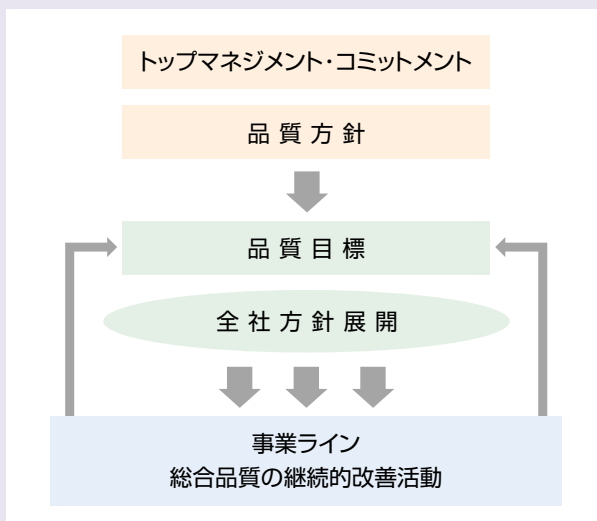
NECエレクトロニクスグループ品質方針

お客様のご要望にお応えし、安心してお使い頂ける高品質・高信頼性の製品とサービスを提供いたします。

NECエレクトロニクスグループの一貫した品質マネジメントシステムを通し、営業・開発・製造などすべてのプロセスにおいて、次のとおり行動します。

- ・法規制を遵守します
- ・安全を実現します
- ・品質の継続的改善を実行します

品質方針展開フロー



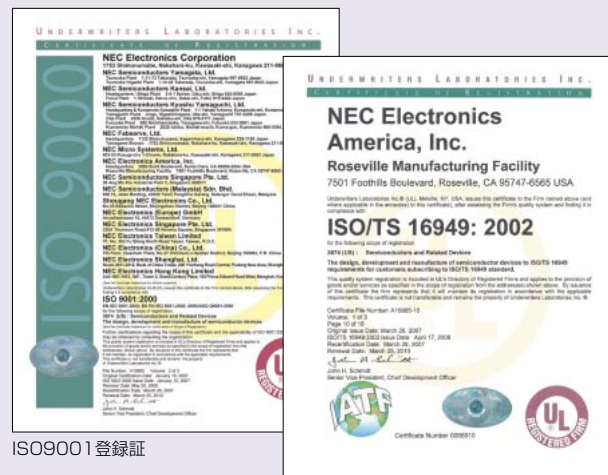
品質マネジメントシステム

ISO9001、ISO/TS16949に適合した品質マネジメントシステムを構築、実践

当社グループは、開発から製造・納入に至る全社レベルの品質マネジメントシステムの実践により、お客様に一層ご満足いただける高品質・高信頼性の製品とサービスを提供しています。

また、多くの自動車関連メーカーのお客様に製品を納入していることから、自動車業界セクター規格に沿った仕組みも構築し、お客様固有のご要求への対応も含め品質向上に取り組んでいます。

従来、グループ各社は、品質マネジメントシステムの国際規格である「ISO9001」、自動車業界セクター規格である「ISO/TS16949」の認証を個別に取得していましたが、グループ全社で単一の品質マネジメントシステムを構築し、2008年4月には一括の認証を取得しました。この結果、すべてのグループ会社が同一の品質を実現することが容易になりました。



ISO9001登録証

ISO/TS16949登録証

品質向上と製品安全への取り組み

営業・開発・製造の各プロセス毎に、管理指標を設定し、総合品質の改善を継続的に進めています。この品質向上の活動プロセスに製品安全リスク点検などを含め、種々の法規制・環境規制への対応により安全・安心な“ものづくり”を進めています。

総合品質の向上と製品安全

設計・製造・サポートの各工程における、徹底した品質つくり込みと製品安全を推進

開発プロセス

当社は、製品の設計ルール微細化や回路の大規模化に対応した設計手法と評価技術の高度化を、継続的に進めています。また、設計の主要工程毎に設けたデザインレビュー(DR)では、変化点に着目したDR手法(DRBFM)の適用による品質のつくり込みを行っています。

製造プロセス

安定した“ものづくり”の実現に向けて、4M(Man、Machine、Material、Method)管理の改善に取り組むと同時に、科学的な工程管理と人の感性を大切にした品質つくり込み活動をグローバルに展開しています。

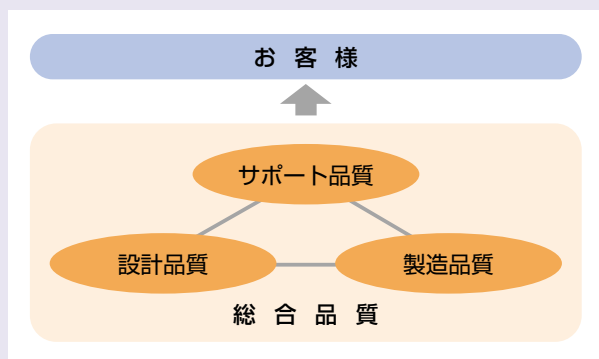
サポートプロセス

当社製品をお客様に安心してお使いいただくため、お客様によるシステム開発から物流・保守に至るまでの全ステージにおいて、製品情報提供とソリューション支援、お客様からのお問い合わせ対応など、サポート品質の向上を進めています。

製品安全

製品を安全にご使用いただくために、製品仕様面での配慮、製品ドキュメント等での正確な情報提供、環境規制対応情報の提供など、多面にわたる活動を進めています。

■総合品質の向上



製品の環境品質保証

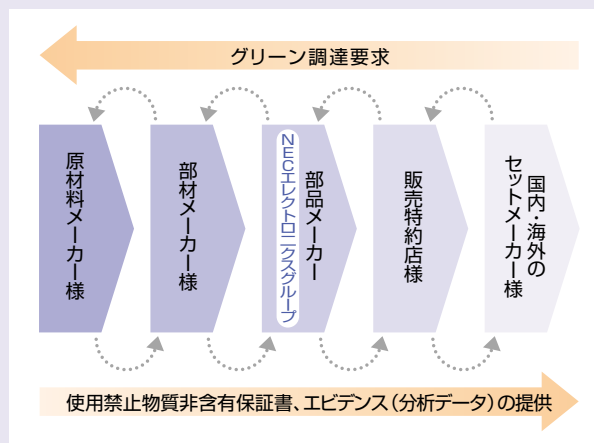
サプライチェーン全体にわたる製品含有化学物質管理を推進

特定有害化学物質の製品への含有が厳しく規制される中、当社では設計開発時の部材選定から製造工程での汚染防止に至るまで全工程を通した含有化学物質管理システムを構築して運用しています。また、含有化学物質管理においてはサプライチェーン全体で取り組む必要があることから、購買パートナーの皆様には使用禁止物質に関わる非含有保証書や分析データの提出、サプライヤーオーディットによる管理体制の確認をさせていただいています。販売パートナーの販売特約店の皆様には、使用する包装材についての含有化学物質管理をお願いしています。

一方、当社からお客様に対しては、当社製品を安心してお使いいただくために使用禁止物質非含有保証書や使用部材の分析データをご提供しています。また、当社の含有化学物質管理の仕組みや実際の活動状況をお客様に確認していただくことで、お客様のグリーンパートナーとして認定していただいています。

当社はこのようにサプライチェーン全体にわたる製品含有化学物質管理を推進することで、製品の環境品質を保証しています。

■サプライチェーン全体での製品含有化学物質管理



社会貢献活動への取り組み

NECエレクトロニクスグループは、従業員とともに心のこもった社会貢献活動を推進していきたいと考えています。これまで、従業員一人ひとりの気持ちを大切に、無理なく社会貢献活動に参加できる環境を整えてきました。

今後も良き企業市民として、積極的に社会貢献活動に取り組んでいきます。

社会貢献活動の基本方針

従業員の高い意識をサポートすることで社会貢献活動を展開します。

1. 良き企業市民として、半導体事業と深い関わりのある地球環境保全と地域社会活動への貢献を中心に活動を展開する。
2. グローバルに事業を展開するNECエレクトロニクスグループとして、企業イメージ向上に寄与する活動を実施する。
3. NECがグループで推進する活動に参加し、NECブランドの価値向上に貢献する。

TALK about CSR

ボランティアを通じて大きな変化をもたらそう。

私たちがボランティアに目を向け、活動計画に従って継続的に協力すれば、CSR活動を広めることは簡単だと思います。行政やNGOと連携しつつ、さまざまな活動を行う中で、私は人々の純粋で、幸せそうな顔に出会います。

一方、“気持ち”、すなわちボランティアスピリットを育むことは、実際の行為より難しいことです。チームリーダーは自ら手本となり、活動評価等を通じてボランティアスピリットをメンバーに維持させる。これが活動を継続させる秘訣ともなります。

さあ、一緒にボランティアを行い、その活動を通じて、私たちが働き、暮らす地域社会に大きな変化をもたらしましょう。



NECセミコンダクターズ・マレーシア
フォン・スン・ファト

熊本のおいしい水のために。

熊本市は、水道水がおいしく、そのすべてを豊かで清らかな地下水でまかなう世界的にも稀な都市です。しかし近年この地下水位は低下傾向にあります。

当社は地下水涵養とCO₂吸収のため、地下への浸透能力が高く熊本市の豊かな地下水を育てている阿蘇白川中流域にある大津町の原野に「植林活動」を推進しています。この地を「NECの森」とし、従業員のボランティアによる植樹も含め、これまで9,000本の植樹を完了し、2008年度も3,000本の植樹を予定しています。これからも、地域に根ざした環境活動で、より一層の地域社会に貢献したいと考えています。



NECセミコンダクターズ九州・山口
伊藤 隆博

当社およびグループ各社の社会貢献活動

当社およびグループ各社は、地域社会への貢献および半導体事業に深い関わりのある地球環境保全を中心に、従業員主体の社会貢献活動を展開しています。また地域に密着した独自の活動のほか、NECグループとしての活動にも参加し、社会貢献活動を推進しています。

ボランティア活動の支援体制

従業員が無理なく活動に参加できる体制を整備し、ボランティア情報を提供

ファミリーフレンドリー休暇制度

当社は、従業員が仕事と私生活の充実をはかることができるように、ファミリーフレンドリー休暇制度を設けています。従業員は、この休暇制度を用いてボランティア活動に参加することができます。子ども向け科学教室の講師やスポーツ大会の運営スタッフなど、さまざまなボランティアに参加された事例が報告されています。

ボランティア友の会

本社および相模原地区には、従業員による「ボランティア友の会」が結成されています。年に2回総会を開催し、社会貢献活動に関する情報交換を行っています。また、会員に対し、さまざまなボランティア活動情報を紹介する電子メールを随時送付しています。

広報活動

当社は、社会貢献活動を積極的に社外へ紹介しています。その結果、業界紙等に活動が紹介されています。

電波新聞(2007年8月23日)

26日に電子工作教室を開催
NECエレクトロニクスは、26日(日)午前10時から相模原市緑区にある「かながわサイエンスパーク」(以下、小中学生の大人を交えて、同施設マイコンラボ)で、小学生を対象とした電子工作教室を開催しました。講師は、NECエレクトロニクスの社員です。工作教室は、マイコンが搭載されたマイコンキット「いろは姫」を用いて、マイコンのプログラムづくりを指導しました。参加した小学生は、講師の指導のもと、マイコンキットを組み立て、マイコンのプログラムづくりを行いました。参加した小学生は、講師の指導のもと、マイコンキットを組み立て、マイコンのプログラムづくりを行いました。参加した小学生は、講師の指導のもと、マイコンキットを組み立て、マイコンのプログラムづくりを行いました。

小学生向け電子工作教室

神奈川県各種団体や企業が参加する科学の体験イベント「かながわサイエンスチャレンジ」において、当社の8ビットマイコンが搭載されたマイコンキット「いろは姫」を活用してランタンをつくる電子工作教室を開催し、従業員が講師役を務めました。



マイコンのプログラムづくりを指導

清掃活動

本社および相模原地区の近くを流れる多摩川や相模川の美化活動のほか、通勤路の清掃活動を定期的に行い、従業員とその家族が積極的に参加しています。



多摩川の美化活動

当社の地域貢献活動

良き企業市民の一員として、地域社会に貢献する活動を展開

児童養護施設を訪問

川崎市の児童養護施設を訪問し、従業員とその家族がペンシルパルーンアートや手品を披露しました。



ペンシルパルーンアートを披露

集めるキャンペーン

外国コイン、使用済み切手、カレンダー等を収集し、地域の老人ホームやユニセフ、NPO法人へ寄贈しました。



使用済み切手の仕分け

当社の森林保全活動

半導体事業に重要な役割を担う、 森林保全活動を積極的に推進

当社は、2005年7月より、神奈川県が展開している「神奈川水源の森林づくり事業」に参加しています。この取り組みの一環として、やどりき水源林(神奈川県松田町寄)内に当社が保護・育成する「半導体の森」を設置、さまざまな活動を実施しています。

間伐・枝打ち作業

従業員およびその家族が、保全活動の最大のイベントである間伐に挑戦しました。森を守ることの大変さを全参加者が実感しました。



のこぎりで木を切り倒す間伐作業



はしごを使って木の枝を切り落とす枝打ち作業

木工作教室

間伐した木材を活用して、コースター、ペン立て、バードコールなどをつくりました。



「どんな作品をつくらうかな?」製作活動に没頭

リースづくり教室

半導体の森にある植物を活用して、クリスマス用にリースをつくりました。



個性あふれる素敵な作品が完成

グループ会社の社会貢献活動

国内外の各地域で地域に密着した活動を展開

NECエレクトロニクス・ アメリカ

従業員とその家族17名が、地域の小学校で新年度から活用してもらえよう学用品をリュックサックに詰め、寄付する活動に参加しました。



力を合わせて学用品入りのリュックを準備した従業員とその家族

NECセミコンダクターズ 山形

毎年、定期的に鶴岡市内の特別養護老人ホームで窓拭きや車椅子の清掃、洗濯物たたみ等の活動を行っています。



窓拭きに精を出す従業員

NECとの連携

NECグループの一員として、 NECが展開する社会貢献活動へ積極的に協力

NEC Makes a Difference Drive 2007

「できることから少しずつ」を合言葉に始まったこの運動には、全世界のNECグループ社員が参加しています。従業員一人ひとりが、地域にも自分自身の中にも新しい価値を創造し継続的に実践することで、社会志向の高い企業マインドを育てています。

田んぼプロジェクト

霞ヶ浦流域の自然再生事業の一環として、NECが協力しているNPO法人アサザ基金の谷津田再生事業に、当社の従業員も参加しました。



田んぼプロジェクトでの田植え作業

地球環境保全への取り組み

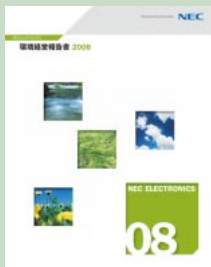
NECエレクトロニクスグループは、持続可能性を踏まえたグローバルな視点で、最先端の半導体製品の開発・生産に取り組み、環境面でのニーズに先行して応える「グリーンパートナー」としての責任を果たしていきます。

NECエレクトロニクス環境方針

わたしたちは、
半導体事業活動を通して
地球環境保全に貢献します。

行動方針

1. 開発／調達／生産／販売／使用／廃棄にいたる全ライフサイクルで環境に配慮した半導体製品を創出します
2. 化学物質などによる環境負荷の低減と汚染の予防に努めます
3. 環境関連法令／その他当社の同意する要求事項を遵守し、自主管理基準を設定して環境マネジメントを行います
4. 全員への環境マネジメント教育を徹底し、環境安全意識の醸成を図ります
5. 環境マネジメントシステムを定期的に見直し、継続的な改善を図ります



地球環境保全への取り組みについては、環境経営報告書2008(別冊)にてより詳しく掲載しています。

環境マネジメントシステム 26

TALK about CSR

環境コンプライアンスの推進で地域社会と共存できる活動を推進しています。

地球環境を取り巻く状況の変化にともなう、多くの環境関連法令の改正・施行に対して抜けない遵守体制を構築しています。各法令の専門員を配置して最新の法令情報を共有化し、企業として適切な対応が取れるよう心がけています。また、環境教育や社内Web等を活用して、従業員一人ひとりの法令遵守意識を高めて、地域社会との共存を目指しています。

NECセミコンダクターズ山形
大滝 吉広



植樹・花植え活動を通して楽しく参加しています。

福井工場は環境と調和し地域と共生することを目指し、積極的に環境保全活動に取り組んできました。その活動の一環として、従業員とその家族の手による植樹・花植え活動を行ってきました。私も推進者として、慣れない手つきで一緒に楽しく参加しています。今後もこの活動を通じて環境保全に関心を持ってもらえればと思っています。

NECセミコンダクターズ関西
辻 恵理子



環境活動の「見える化」を目指して活動しています。

毎年発行している環境報告書、隔月で発行している『環境だより』および社内環境Webの作成に携わっています。各工場での環境活動や取り組み、世界的な動き等の情報をできるだけわかりやすく提供し、一人でも多くの方の目に留まるように届けることを心がけています。これからもさまざまな環境に関する情報を発信して、全従業員の本来業務による環境活動向上を目指していきます。

NECセミコンダクターズ九州・山口
緒方 聡子



環境マネジメントシステム

エコプロダクト・エコファクトリ・エココミュニケーションを3本柱の活動とした環境マネジメントシステムを構築・運用し、半導体事業活動にともなう環境負荷の低減と地球環境保全への貢献に取り組んでいます。

エコプロダクト・エコファクトリ・ エココミュニケーション

3つの活動を柱に全員参加による環境経営を推進

当社グループは、地球環境問題が事業の持続的発展に直結することを認識し、半導体事業活動全体を通して、地球環境保全へ貢献しています。

- (1) 含有化学物質管理や省エネルギー化等のように製品のライフサイクルで環境に配慮した半導体を提供するエコプロダクト活動
- (2) 温室効果ガス排出抑制・製造時の化学物質削減活動により生産工場の環境への負荷を低減するエコファクトリ活動
- (3) 環境教育による従業員への意識啓発と、社会に対して当社グループの環境情報を広く公開するエココミュニケーション活動

これらを環境活動の3本柱として、全事業領域・全員参加による環境経営を推進し、その基盤として環境マネジメントシステムを構築し活用しています。

■環境マネジメント概念図



エコプロダクト活動

調達から生産、使用、廃棄まですべてのフェーズで環境に配慮したグリーン製品を創出

一般消費者の方が使用する電子電気機器はさまざまな原材料、部品で構成されています。従って、この電子電気機器を安全で環境負荷が少ないものとするためには、原材料、部品の段階から環境に配慮した取り組みが必須です。当社は部品メーカーとして、事業活動そのものを環境に配慮した活動へとシフトさせてきましたが、最近の環境意識の一層の高まりを反映し、当社製品の環境対応を品質の一部と捉え、経営の重要課題に位置付けています。

具体的には、電子電気機器メーカーであるお客様からのグリーン調達要求の遵守を徹底するとともに、当社の自主的な取り組みを加味した内容で、購買パートナーの皆様へ当社グリーン調達ガイドラインを提示させていただき、使用禁止物質の部材への含有を防止しています。また、購買パートナーの皆様に対する定期的なオーディットも実施しています。

一方、ライフサイクル、特に使用時の環境負荷低減の観点では、最先端のプロセス技術を活かし、複数の機能を一つのチップに納めるシステムLSIや低消費電力設計等で最終製品の省電力化に貢献しています。また、一般消費者やお客様に安心して当社の半導体デバイスを使用していただくために、製品に含有する化学物質の情報を積極的に公開しています。

環境マネジメントシステム

エコファクトリ活動

工場への環境への負荷低減を推進

エネルギーの効率的な利用

当社グループは、エネルギーの国内消費量を2010年度までに実質生産高原単位*で1990年度の65%以下にすることを目標にしています。これまで、ムダなエネルギーの排除、製造プロセスの見直しをはじめ、半導体業界活動に積極的に参画し、生産設備業界・付帯設備業界との連携をはかりながら、省エネルギー活動を推進してきました。

さらに近年、生産効率の向上という視点も加えて、エネルギー対策を推進しています。

*実質生産高原単位=CO₂排出量÷(生産高÷日銀による国内企業物価指数:電気機器の部)
CO₂排出量は、国内の事業所・工場の合計値

温室効果ガスの排出量削減

当社グループが使用する温室効果ガスは、主に半導体製造工程で反応チャンバーのクリーニングガス等に使用しているPFC等です。大気寿命が長く、温暖化係数(GWP)もCO₂の約6,000倍から12,000倍と高いため、その排出量削減が重要な課題となっています。

当社では、2010年までに、PFCによる温室効果ガス排出量を1995年の90%以下にすることを目指し技術開発を行ってきました。

製造時の化学物質対策

当社は、グリーン調達や法規制情報に基づく化学物質データベースを基盤として、各種アセスメントを実施しています。使用している化学物質の総量を把握するとともに、有害性の観点から化学物質管理を行い、グリーン製品やエコファクトリにつながる研究・開発を行っています。また、1998年からPRTRパイロット事業に参画し、法律の要求内容(2002年度分まで使用量5トン/年以上、2003年度分から1トン/年以上を報告)に加え、リスク管理のために使用量で数値の切り捨てをしない収支管理を行っています。

エココミュニケーション活動

環境情報を一般公開し、広く情報発信を推進中

環境経営報告書の発行、Webによる情報開示、講演会等を通じて、環境への取り組みに関する情報を広く発信するとともに、地域社会との交流、環境保全活動にも積極的に取り組んでいます。

Webによる情報開示

Webをエココミュニケーションの重要なツールと位置付けて、環境情報を発信しています。当社の環境方針、環境活動内容、環境経営報告書等を公開しています。当社グループ会社も独自にWebによる環境情報の発信を行っています。

外部表彰

NECセミコンダクターズ九州・山口の熊本川尻工場は、2008年2月に社団法人環境情報科学センター主催の「第4回PRTR大賞2007」において、大賞に次ぐPRTR 優秀賞・審査員特別賞を受賞しました。PRTR大賞は、事業者自らが率先して化学物質管理を行い、市民の理解を得るためのコミュニケーションを積極的に実践している企業の活動を表彰するものです。



PRTR大賞表彰式の様子

海岸の清掃活動

NECセミコンダクターズ九州・山口の大分工場は、NPO法人水辺に遊ぶ会主催の大新田ビーチクリーン活動に参加しています。年に4回の海岸清掃活動を行い、タイヤ、自転車、テレビ、ガラス片等も回収しています。今後も継続して地域の美化活動を実施していきます。



大新田ビーチクリーンの参加者たち

誠実で透明な企業活動

NECエレクトロニクスグループは、誠実で透明性の高い企業活動にはお取引先の皆様との連携や株主・投資家の皆様に長期的に信頼していただくことが重要であると考え、適時、適切かつ公平な情報開示やコミュニケーションに努めています。

お取引先の皆様との連携に対する考え方

共に企業価値を高められる、信頼されるパートナーを目指します。

NECエレクトロニクスグループは、公平かつ誠実なビジネスを実践していきます。そして、パートナーであるお取引先や販売特約店の皆様に当社グループの事業、CSR推進活動をご理解いただくとともに、多面的な連携を通じ、共に企業価値の向上をはかっていきたいと考えています。

株主・投資家との信頼関係強化

誠実で透明性の高い経営を実践します。

NECエレクトロニクスグループは、競争力を強化し、収益性の向上、健全な経営体質の維持をはかることはもとより、誠実で透明な経営や適切な内部統制の実践を通じ、長期的に信頼していただける企業を目指しています。

また、当社グループ丸となって、「NECエレクトロニクスグループ企業行動憲章」の理念の実現に取り組み、企業価値の向上に努めていきます。

TALK about CSR

購買パートナー様と連携したCSR活動を実践しています。

当社では、「グリーン調達」「災害発生時の情報連携」「情報セキュリティ／個人情報管理の徹底」等に、購買パートナーの皆様と連携・協力して取り組んでいます。また、法令遵守・公正取引維持のため、「資材取引ルール策定」「ケーススタディによる意識啓発」「社内外調査」等、不適切事例の発見・是正・フォローのPDCAを回してCSR活動を実践しています。

NECセミコンダクターズ九州・山口
田尻 直



心を惹きつける魅力的な企業をめざします。

私たちは、大切な販売パートナー様との関係維持のために積極的な取り組みを続けており、現在、とても良いパートナーシップを築いています。鍵は、販売パートナー様の気持ちを当社に惹きつけること。その努力を続けることが、力を合わせて前向きなビジネス環境を構築することにつながり、お客様にNECエレクトロニクスは先進的な技術を持つだけでなく、社会的責任も果たしている企業というイメージが伝わっていくと信じています。

NECエレクトロニクス・ヨーロッパ
トニー・シャンパネリ



株主・投資家の皆様へのアカウントビリティを常に念頭に置き、IR活動に取り組んでいます。

当社は、上場企業として株主・投資家の皆様に信用される存在であり続けるため、迅速で公平な情報開示を行うとともに、十分な説明責任を果たしていくことが必要です。私は、株主・投資家の皆様に接する機会が多いIR担当者として、これらの重要性をより十分に認識し、当社の企業価値の向上に貢献すべく、日々業務に努めています。

コーポレートコミュニケーション部
覚知 正敏



購買パートナーとの連携	29
販売パートナーとの連携	30
透明な経営への取り組み	31

購買パートナーとの連携

全世界の市場から適正な品質・価格・納期に必要な資材・サービス等を調達し、お客様、購買パートナーの皆様および当社グループの企業価値向上に努めます。

調達方針

平等な競争機会を提供するとともに、公正、公平かつオープンな取引を実践

当社では、会社設立以来、環境への影響が少ない材料・設備を、環境に配慮した購買パートナーの皆様から優先的に調達する「グリーン調達」に、グループを挙げて取り組んできました。

さらに、2004年度からは、この環境配慮の視点に、コンプライアンス、リスク管理、人権保護等の視点を加え、調達時に多面的な観点から購買パートナーの皆様を評価させていただいています。具体的には、Webサイト上に購買パートナーの皆様へのCSR推進に関するお願いを掲載し、サプライチェーンの視点からCSRのさらなる推進をはかっています。

調達方針

1. 平等な競争機会の提供
調達に関する情報を適時・適切に発信し、購買取引を望まれる国内外の全ての企業様に平等に競争の機会を提供します。
2. 公正なパートナー様の評価・選定
パートナー様の評価・選定は、経営の信頼性、調達品等の価格・品質・納期・先進的な技術力はもとよりCSRの視点等を加味し、総合的に行います。
3. 相互の信頼
パートナー様とのコミュニケーションを大切に、永く共に信頼、発展できる関係づくりに努力します。
4. 情報の管理・保護
購買取引を通じて知り得た情報の価値を認識し、適正に管理します。

URL <http://www.necel.com/procurement/ja/>

購買パートナー向けWebサイト

CSRに関するお願い

CSRの観点を取り入れた、調達活動を推進

CSRガイドラインの公開

当社では、CSRの観点からお客様や社会に望まれる製品を供給していくため、サプライチェーンに関わるすべての購買パートナーの皆様との連携、協力を、より一層強化していく必要があると考えています。そのため、購買パートナーの皆様に取り組んでいただきたい課題を具体的に提示することを目的とし、「購買パートナー様向けCSRガイドライン*」

を社外向けWebサイトに公開しています。

*CSRガイドラインは、JEITA((社)電子情報技術産業協会)が公開する「サプライチェーンCSR推進ガイドブック」に準拠しています

2007年度の重点活動

多岐にわたるCSRの視点の中で、2007年度は、「グリーン調達」、「情報セキュリティ管理」、「安定調達を支える礎の構築(災害対応・BCP*・公正取引など)」の徹底を重点課題として、購買パートナーの皆様にお願ひしました。

災害対応では、購買パートナーの皆様が自然災害、事故等で被災された場合に、情報をいち早く提供いただくことをお願いしています。また、いただいた情報は平日、休日に関わらず、国内外の当社関係者へ瞬時に展開・共有する仕組みを構築しています。

*BCP(Business Continuity Plan):事業継続計画

グリーン調達の推進

2004年3月の直接材・梱包材グリーン調達100%達成に続いて、2006年3月には社内消費される間接材・設備等のグリーン調達100%を達成しました。RoHS指令等の法規制への対応も、購買パートナーの皆様からのご理解・ご協力のもと推進しています。

CSRオーディット

2004年度からは、従来の環境、品質、安全衛生等の視点に加え、コンプライアンス、情報保護等の視点からも、継続的に購買パートナーの皆様へのオーディットを実施しています。

購買パートナーの皆様の表彰

価格、品質、納期、技術等、広範囲にわたる1年間のさまざまな活動に加え、CSRへの取り組みも考慮して、購買パートナー様の表彰を行わせていただいています。本年も優秀と評価された皆様を6月に表彰させていただきました。

販売パートナーとの連携

製品やサービスを市場に供給し、お客様との信頼関係を深めていくために、販売パートナーの皆様との密接な連携が不可欠と考え、今後とも積極的にパートナーシップの強化に努めていきます。

国内販売特約店との連携強化

国内販売特約店の皆様とのチームワークで、競争優位を確保

幹部ミーティング

半期毎に販売特約店幹部の皆様と定例ミーティングを実施し、電子機器や半導体市場動向についての情報交換や共通の課題についての協議等を行うとともに、経営層レベルでの連携強化をはかっています。

営業要員育成支援

販売特約店の営業要員、セールスエンジニアの皆様を対象として各種要員教育や製品教育を提供し、当社製品を拡販していただくために必要な知識、スキルの修得を支援しています。

技術系・営業系の各スキルアップコース合わせて、年間100を超える各種コースを用意し、販売特約店の皆様のスキルアップに活用いただいています。毎年、これらの研修コースには、延べ約1,000名を超える方が参加しています。

「デザインウィン・グランプリ」の実施

販売特約店の営業部員、エンジニアの皆様の中から、優れた営業活動、技術サポート活動によりお客様の満足度向上に貢献し、顕著な実績を上げた方々を表彰する「デザインウィン・グランプリ」を行っています。この「デザインウィン・グランプリ」では、成功事例等に関する論文およびプレゼンテーションを審査し、優秀者を表彰しています。

「デザインウィン・グランプリ2008」では、販売特約店より31件の優秀な活動を推薦いただき、審査を実施しました。



デザインウィン・グランプリの表彰式



トロフィー

海外販売パートナーとの連携強化

販売パートナーの皆様とともに、現地に根ざした営業活動を推進

欧米地域のパートナー連携

欧米地域では、当社現地販売法人が、直接販売に加え、それぞれ現地のディストリビュータの皆様とマネジメントから実務のレベルまで幅広く連携して営業活動を展開しています。マネジメントレベルでは、年2回行われるディストリビュータ・ミーティングや四半期毎の定例ミーティング等を通じて営業方針の確認や問題点の解決をはかり、また、実務レベルでは、それぞれ担当するディストリビュータと定期的なミーティングを行い、実ビジネス上の課題解決に向けた活動を行っています。これらの多角的な意見交換、ディスカッション等を通じて、パートナーとの連携強化をはかっています。

アジア地域のパートナー連携

アジア地域では、当社現地販売法人が各地域に進出している日系販売特約店の現地法人や現地の商社の皆様と密接な連携をはかりながら販売活動を展開しています。「世界の生産基地」であるこの地域には、日系企業、欧米系企業の調達・生産の拠点がおり、また、近年急成長を遂げている現地地場系企業が開発を含めた活動を活発化させています。こうしたお客様に対して十分なサポートができるよう当社は販売パートナーの皆様との連携強化に取り組んでいます。

透明な経営への取り組み

開かれた企業として、誠実かつ適時適切、公平に企業情報を開示するとともに、積極的なコミュニケーション活動を推進し、経営の透明性を高めていきます。

IR (投資家向け広報) 活動の目的

株主・投資家の皆様との信頼関係を深め、 将来の良好な資金調達環境づくりを推進

当社は、経営戦略、業績等、投資判断に必要となる重要な情報を、すべての投資家の皆様に対して誠実かつ適時適切、公平に開示することで、株主・投資家の皆様との信頼関係を構築するよう努めるとともに、経営の透明性の向上をはかっています。

当社は、将来の良好な資金調達環境づくり、企業価値の向上に加えて、IR活動を通じて株主・投資家の皆様からいただいたご意見、評価を随時社内へ報告し、経営品質を高めることもIR活動の重要な目的であると考えています。

IR活動の概要

国内・海外、個人・機関投資家を問わず、より多くの株主・投資家の皆様への公平な情報発信を行うため、IRサイトの拡充をはかっています。IRサイトには、四半期毎の決算発表内容や、アニュアル・レポート(年次報告書)等の各種IR関連報告書類、株価情報、IRイベント情報等のご案内等を掲載しています。特に、機関投資家や証券アナリストの皆様を対象とした決算説明会や社長による経営方針説明会を開催する場合には、その資料を日本語および英語でIRサイトに迅速に掲載するとともに、音声配信も行っています。また、個人投資家の皆様に対しては、個人投資家向けサイトを開設し、情報発信の強化に努めています。

当社のIRサイトは、日興アイ・アール(株)による「2007年度全上場企業ホームページ実態調査」において、2年連続で最優秀サイトとして評価されたほか、ゴメス・コンサルティング(株)による「2008年3月IRサイト総合ランキング」に



においても2年連続優秀企業として選出されました。

決算説明会の様子



日興アイ・アール(株)による最優秀サイトマーク



ゴメス・コンサルティング(株)による優秀企業サイトマーク



URL

<http://www.necel.com/ir/ja/>

IRサイト

開かれた株主総会

株主の皆様との直接の対話の場として、 株主総会を運営

当社は、株主総会を株主の皆様との直接の対話の場と考え、総会開催日の3週間前の招集通知の発送や、当社事業への理解を深めていただくため株主総会の会場で製品や技術を紹介する展示コーナーを設置する等、開かれた株主総会を実現する努力を続けています。



株主総会の会場



注目の製品や採用事例を紹介した展示コーナー

企業概要

会社概要

商号 NECエレクトロニクス株式会社
 本社 〒211-8668
 神奈川県川崎市中原区下沼部1753番地
 Tel 044-435-5111 (大代表)
 設立 2002年11月1日
 資本金 860億円(2008年3月末現在)
 連結売上高 6,877億円(2008年3月期)
 事業内容 システムLSIを中心とした各種半導体に関する研究、開発、製造、販売
 従業員数(連結) 約23,000名(2008年3月末現在)

沿革

1899年 日本電気株式会社(NEC)創立
 1960年 集積回路(IC)の実用化研究に着手
 1985年 半導体世界シェアNo.1に
 2002年 NECから分社化し、NECエレクトロニクスを設立
 2003年 東京証券取引所第一部上場

2007年度の経営概況

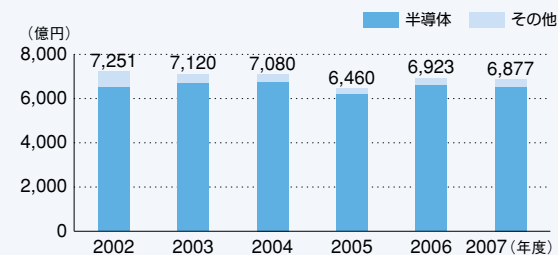
当社における当期の連結業績は、売上高については、ゲーム機向け半導体が大幅に増加したこと等により民生用電子機器分野を中心に増加したものの、携帯電話端末向け半導体の減少等により、前期と比べ45億円の減少となる6,877億円となりました。

損益については、原価率の改善に加え、研究開発の効率化をはじめとする固定費削減施策により、税引前損益は33億円の損失と前期と比べ321億円の改善、当期純損益は160億円の損失と前期と比べ255億円の改善となりました。

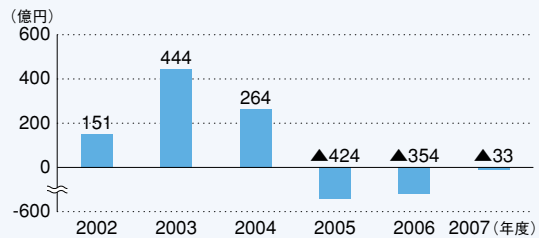
当社グループは、2007年2月に策定した経営方針に基づき、さまざまな施策を実行しております。この経営方針により、半導体の市場悪化時も、利益を生み出すことのできる強靱な事業体質を構築すべく、全社を挙げて経営の効率化に取り組んでおります。

*詳細はアニュアル・レポートをご参照ください

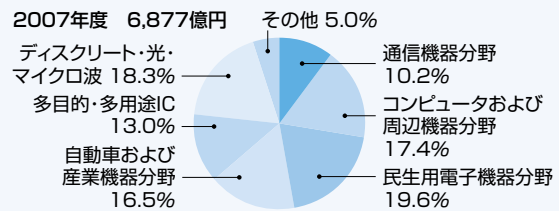
連結売上高推移



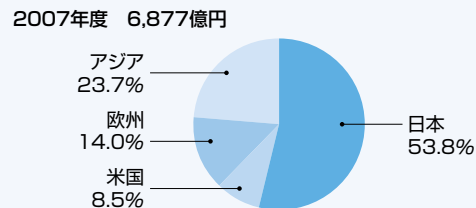
連結税引前損益推移



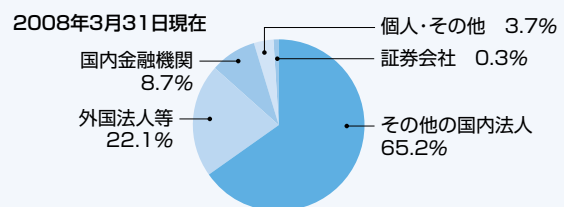
製品分野別売上高



所在地別売上高

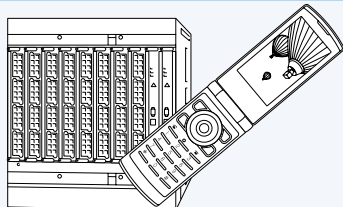


当社株式所有者別状況



事業分野と主なアプリケーション

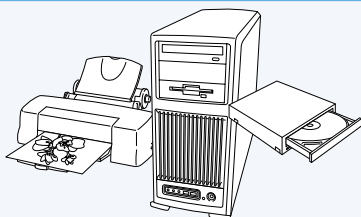
通信機器分野



主なアプリケーション

携帯電話端末
ブロードバンド通信機器
・ルーター
・携帯電話基地局システム

コンピュータおよび周辺機器分野

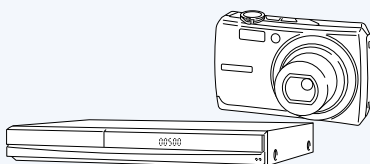


主なアプリケーション

コンピュータ
・サーバ
・ワークステーション

コンピュータ周辺機器
・記録型DVDドライブ
・プリンタ
・PC用LCD

民生用電子機器分野

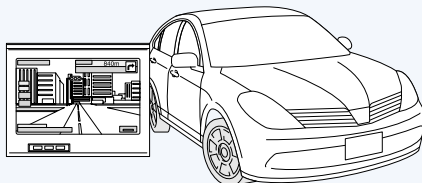


主なアプリケーション

デジタルAV
・デジタルカメラ
・DVDレコーダー
・デジタルテレビ

家電製品
ゲーム機器

自動車および産業機器分野

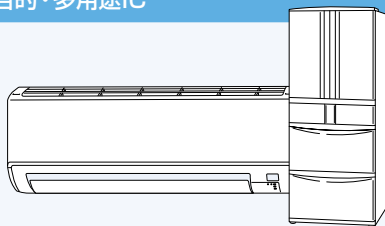


主なアプリケーション

自動車
・エンジン
・ボディ制御
・エアバッグ
・カーオーディオ

産業機器
・FA機器

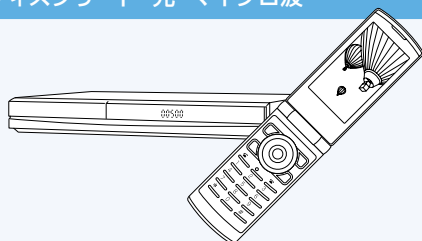
多目的・多用途IC



主なアプリケーション

電子機器全般

ディスプレイ・光・マイクロ波



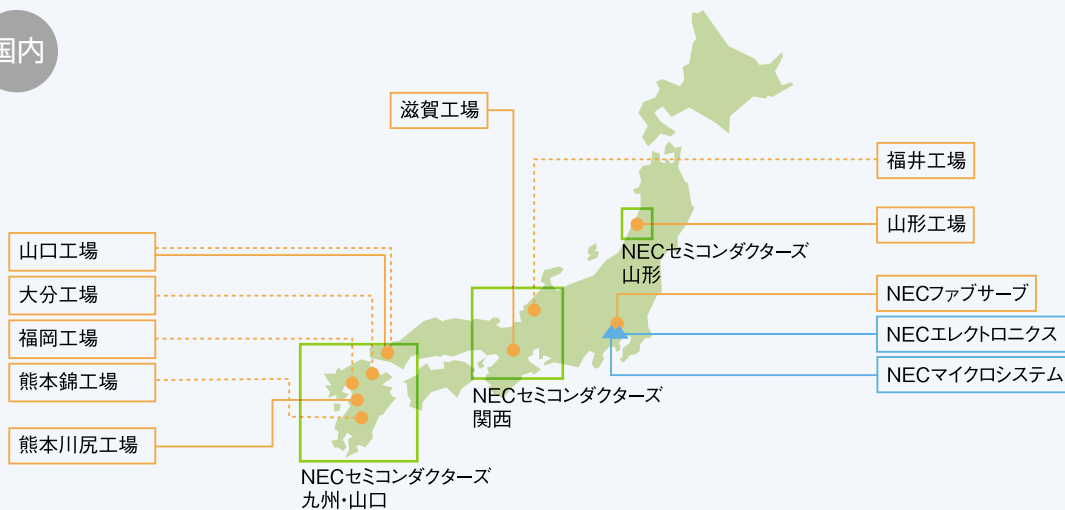
主なアプリケーション

電子機器全般

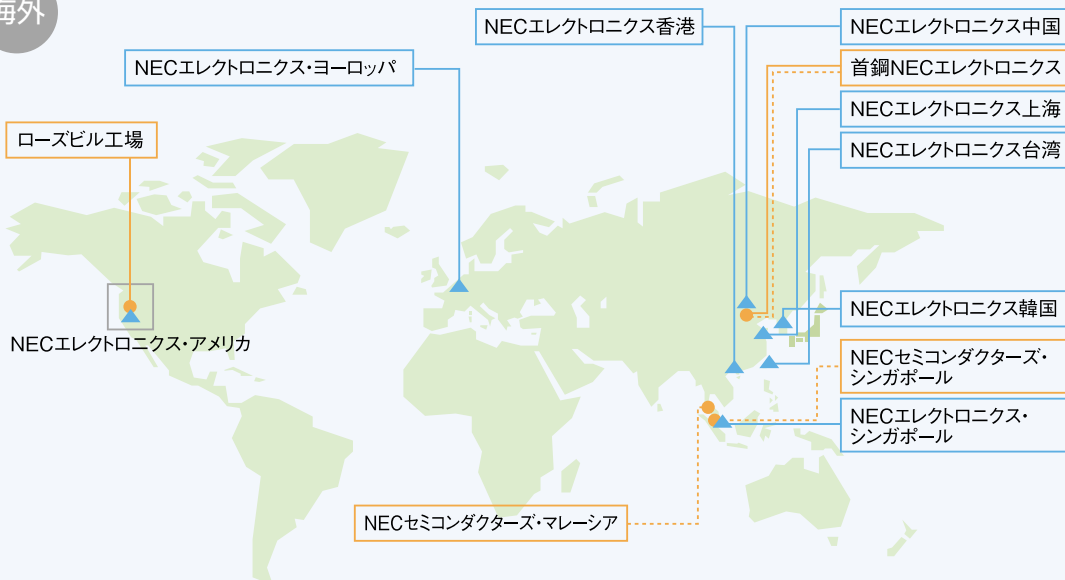
主な関係会社 (2008年4月1日現在)

●生産会社/工場 (— 前工程) (--- 後工程) ▲販売・設計会社

国内



海外



編集後記

「CSRレポート2008」をお読みいただき、ありがとうございます。今年度は巻頭に、「豊かな社会を支えるNECエレクトロニクスグループのものづくり」と題する特集記事を設け、当社グループの先端技術と、その技術を支える人づくりを紹介しています。この記事を通じ、より多くの読者の皆様に、当社の事業について理解を深めていただければ幸いです。私たちは、今後もステークホルダーの皆様から信頼していただける企業であるよう、本レポートの発行をはじめとする情報発

信を続けてまいります。本レポートの内容に関するお問い合わせや、当社グループのCSR活動に関する皆様からのご意見、ご質問などを、アンケートを通じお寄せいただければ幸いです。

本レポートに関するお問い合わせ先

NECエレクトロニクス株式会社 コーポレートコミュニケーション部
e-mail : csr@necel.com

NECエレクトロニクス株式会社

〒 211-8668 神奈川県川崎市中原区下沼部 1753 番地

Tel: 044-435-5111 (大代表)

<http://www.necel.co.jp/>

